

第4回 静岡市市民活動促進協議会（第10期） 会議録

1. 開催日時 令和8年7月6日（月） 9時15分から11時15分まで
2. 開催場所 静岡市葵消防署 7階 講堂
3. 出席者 （1）出席委員 山岡会長、木村副会長、大村委員、川村 栄司委員、
河村委員、川村 美智委員、小久江委員、佐々木委員、
白土委員
（2）事務局 石川市民自治推進課長、渡井係長、柏原主査、
今西主任主事

4. 傍聴者 0人

5. 内 容

（1）会議の成立及び公開

委員12名中、9名の出席があるため、条例第14条第2項の規定により会議が成立していることを確認した。また、会議の傍聴及び会議録は公開するものとし、非公開とすべき事項が生じた場合に、その都度、その旨の決定することを確認した。

（2）委員の解嘱と委嘱

令和8年6月30日付、本人からの申出による一身上の都合により、川島 徹也委員を解嘱。令8年7月1日付、静岡市社会福祉協議会 小久江 陽子様に委員を委嘱。なお、小久江委員の任期は令和9年6月30日までとする。

（3）議 事

（山岡会長）

初めに「市民活動センター等に関するパブリックコメントについて」の説明を事務局からお願いします。

（事務局説明）

市民活動センター等に関するパブリックコメントについて

（山岡会長）

ここまでの説明で何か質問などございますでしょうか。

パブリックコメントでそういう方向になったのは協議会としては良い方向かと思います。前期の協議会で市民活動センターに関しては、答申を出しておりますので、それを踏まえて進めていただきたいと思います。生涯学習との連動の部分はぜひやっていただいたいと思うし、今やっている見直しの話とも関わってくるのかと思います。

皆さんどうでしょうか。

この後またパブリックコメントもあるということです。今回もパブリックコメントしていただいた方がおられるかもしれませんが、引き続き注視していきたいと思っております。

続いて、団体アンケート・市民ワークショップの結果と第3回協議会振り返りについて事務局から報告をお願いします。

（事務局説明）

団体アンケート・市民ワークショップの結果について

ワークショップ当日に木村副会長と白土委員もご参加くださいましたので、当日のワークショップの感想や気づいたことなどありましたら、一言いただきたいと思えます。

（木村副会長）

当日参加をさせていただきました。こちらの資料にある通り、参加された方の人数は少なかったのですが、本当にワークショップというよりは、緩やかな対話の場ということだったので、そういった意味では、自らが活動者という位置づけもそうですが、一市民としていろんな意見を言っていたのかな。アンケートだとおそらく広く傾向的なところが結果として出てくるのですが、こういった対話の中から、それぞれもっと深く、それぞれの方の背景だったりとか、思いだったりとか、そういったことが感じられるような意見を聞いたというのは、非常に有意義だったかなと思います。

12人でしたけれども、もっと広くいろんな方の意見があると、さらに団体間の協働やつながり、活動の見える化、活動自体の見える化だけではなく、活動されている方の思いの表出といったこともできるので、今後うまく活用するといい機会、いい場になるのかなというのを感じた次第です。

（白土委員）

私も参加させていただきました。写真で見ても分かるかと思うのですが、靴を脱いで、座布団みたいなところに座りながら皆さんでお話をしたので、ご近所さんとお話するみたいな、このワークショップ自体が街のような感覚で、一人一人が普段の暮らしを振り返りながら、ひとつずつ言葉にしている空間だと思っていました。

いつものワークショップとは違って、なんか模造紙にペンで書いていったりっていうこともなくて。その時は、本当に自由に話すことがメインで、何でも話しましょうということ、ファシリテーターの方が最初に皆さんに共有してくださったので、ま

とめようって思って、人に合わせた同調したような言葉を言うということが少なく
て。意見がまとまることはなくてもいいから、そういえば思い出したけどみたいな感
じで話が結構発展していくみたいなのが、本音が引き出される場だった要因かなと
思っているんで、こういうことは継続されるといいかなと思いました。

（事務局説明）

- ・第 3 回協議会振返り
- ・柱 3・4 の中間見直しについて

（山岡会長）

只今、事務局からアンケート、ワークショップについての報告、それと前回の振り
返りについて説明がありました。まずは、15 分ほど時間を取りますので、柱 3・4
の中間見直しについて、お近くの委員同士で話し合いをお願いします。

（川村 栄司委員）

質問よろしいですか。柱 3 と 4 の議論をこれからするということですが、4 次計画
の中では、柱 1～4 っていうのが、だんだん上がってくるっていうか、平場のところ
でいろいろ頑張って、それが繋がりをもっていくイメージだったんですけど。スケジ
ュールの的には柱 3・4 の議論を先行して、その後に柱 1・2 ということになっていま
す。別にそれが駄目ではなくその理由はあるか教えていただきたいです。

（事務局）

質問についてなんですけれども、まず柱の 3・4 からっていうのは、成果指標とな
っている数字のところで、柱 3・4 については、令和 7 年度の最終の数値っていうの
が今の段階で出てきているんですけども、柱の 1・2 の成果指標になっている部分
の数値っていうのが、まだ結果が出ていない。ちょうど市民意識調査で今取っている
ものになっていて、皆さんにお出しできる数値が今取れていないっていうところか
ら、先に柱 3・4 の話し合いをしていただいて、柱 1・2 の数値が出た段階で、皆さ
んにはそれを見ながら話し合っただこうというようなことで、こちらのスケジ
ュールのにそういう風に組んでいるというものになります。

（川村 栄司委員）

柱 1・2 よりも柱 3・4 の方がちょっと取っ掛かりのテーマとしては難しいかなと
いう気がしましたが、別にこだわってはいません。

（山岡会長）

今のご指摘は重要なとこだと思います。相互に連動してというところを基本的視点として挙げていますので、切り離してやるという自体が連動を考える際はそぐわないことです。今回の話の中でも、特に柱3・4ということではありますけれども、柱1・2に関わることもあれば、お話していただければと思います。

（グループで意見交換）

（山岡会長）

お時間になりましたので、一旦、ここで終わりにしたいと思います。グループごとに共有をしていただきたいと思います。それぞれのグループでどんな話をしたか報告をお願いいたします。こんな話が出ましたということで結構です。

（木村副会長）

4つの柱自体は、目指す姿に変わりはないんだろうというところでは。実際に市民活動の意義というところでは、地域の課題、社会課題を解決していくにあたり、行政ではできない隙間を埋めていくのに、市民活動は必要ということです。

ただ実際に地域の課題というところが、本当の課題が見えにくくて。例えば、地域の高齢者の方々の足の問題とか、地域によっては出てきますけど、本当に困っているのはそこかしらというような、実際にそこを支えている働く世代の人たちがこう苦労している。そんな一面も実際はあるんじゃないのとか、そういったところが実際に、本当の課題を見切れていないんじゃないか。

そこを支える市民活動をやはり支えていく必要はあるんですけども、柱3に見る限りでは、確かに当初の見通しの通り増えてはいますけども、一見するとやはりこう辞めていく団体も多いんじゃないか。

そこではやはり市民活動の高齢化であったりとか、人手の問題であったりとかというところが、やはり出てくるというところでは、実際に一般の市民の方々がやはり市民活動の活動を知ってもらうことも必要ですけども、その醍醐味であったりとか、やりがいであったりとか、そういったことも伝えていかないと市民活動への参加というのは本当に広がっていかないんじゃないかなというような、そんな意見も出たところでは。

（河村委員）

施策の柱の数値目標というところの結論までは、なかなか難しかったんですけども、私の方からちょっとお話をもらったのが、施策の柱3の目標の新規登録団体数っていうところでは。これ、足し算していくとちょっと合わないの、先ほど副会長もおっしゃってた通り、活動がなくなってしまう団体もあると思うので、プラスを

出していただけじゃなくて、マイナスをいかに抑えるかということも、成果にはなると思うので、減少を食い止めたみたいな指標がもしかしたら加わってもいいのかなってというようなお話はさせてもらいました。

あと施策の柱 4 としては、事業者が若干減っているというところではあるんですけども、例えば、私は去年 11 月に大浜公園でイベントをやしまして、市の緑政策課とかいろいろ、大きな事業で大浜公園プールが新しくなって、プール初年が終わりまして、で、最初に民間が主体となってやるイベントですってやったんですけど、多分これは協働になってないんですよね。

市に対して、後援名義の申請とか、こういうことやりますよって許可をもらってるので、例えば、民からの働きかけだけじゃなくて、働きかけがあったら、いかに市の担当課が協働して、その事業と一緒にできるかっていうところ、そっちがないと既存だけで、ずっと同じ内容が大半を占めてると思うんです。

こっちがアプローチして、その時に一緒にやりましょうって言われたら、私はもちろん喜んでと言ったんですが、多分そういうミスマッチングもあるのかなってというような感じもしました。

目標は高く掲げて、そこに到達するための努力というのを、市役所の各担当課もそういう案件があれば、もうちょっと前向きに行きましょうみたいな周知があるといいのかなという気がしました。

（佐々木委員）

この後、それぞれの皆さんの意見が出た後、今度は答申の構成について話をしていくわけなので、ここでいくら言っても、あるいはパブコメで意見が出ちゃったから、もう駿河区の市民活動センターはいらないっていう風になっちゃうっていうことは、市の方向性とパブコメのその重要性がどこなのかなってというのは、ちょっと不安に思うところがありました。

パブコメが 500 何件も出たとか、この間のワークショップが 12 名と多くはないかもしれないけど、非常に重要、有意義だったよっていうことであるとする、やっぱりそのワークショップ等を何度も何度も様々なところでやっていくことで、自分たちがやっている活動が知ってもらえるとか、他の団体もこんな風にやってらっしゃるんだとかっていう、そういう交流がないと新しく何か団体を増やしていこうとか、そろそろやめようかっていうので、大体高齢化とかお金の問題、仲間割れだと思うので、そういう交流の場面が増えることで、目的は違うかもしれないけど、そうやってお互いに活動し合うことで、静岡にいてよかったと思う、その幸福度が上がっていくところが市民活動の本当の大きな部分かなと感じました。

（白土委員）

柱3に関して主に話しました。成果指標、新規登録団体数のところに関して見てたんですが、目標としての数値は十分クリアしているけど、新陳代謝が結構あるなっていうところは、お話しておりました。55団体がどうして登録したのか知りたいよねという話とか。ここで結構新規が増えてるってことは必要とされてるっていうことが言えると思うので、どんなニーズが、活動を始めたいっていう人たちにとってマッチしてるのかってところをちゃんと拾えることが大事っていう意見ですとか。

これはちょっと数値を追いかける話とはずれてしまう、もうちょっと広い話かもしれないんですけど、自分たちが市民活動してるという自覚がなかったとしても、実際に客観的に見て、市民活動と言えるような活動をしている。特に若い世代は増えていくという実感があるので、そこも含めて広がりがあるっていうことを評価することとか、拾っていくということが数値でできるなら数値で。それ以外で評価できるなら、より多くの人に見える方法で拾っていけるといいのではないかなという意見が出ました。

あとは市民活動センター、これはハード面の基盤に関して、やっぱりよく目立つのが、清水の市民活動センターの稼働率が番町と比べて低いのはきっと何か原因があるんだらうっていうところを話しまして。駐車場の台数が半分近くなので、ここがネックなんじゃないかなって話とか、実際に清水の稼働率を上げるために行われていることが何かあれば知りたいという話をしていました。

(川村 美智委員)

私たちは数値目標についてどう考えるかみたいところで、どうしても自分も市民活動しているので、数値を挙げられると、活動している自分たちがイマイチなのかって、すごくせき立てられるというか。数値が一つの目標になっていて、それでなんかすごいお尻叩かれるような気がしちゃうんですね。

だけど本来は、この数値がもし減っていたら、それは何が原因なのかとか、あるいは増えていたら増えていたで、その要因は何かっていう、むしろその分析のための数値っていう風な計画を立てる方が。行政も私たちもそういう認識が必要であって、そのことをやっぱり市民の皆さんにも理解してもらって、これは目標なんだけれども、何が足りないのかとか、何が良かったかとか、そういう分析のための数値だっていう風に考えたいねっていうところで、数値そのものを動かす必要はないかなっていうのを話しました。

あと、協働っていうところの難しさみたいなので、私は協働パイロット事業の審査をやっているのですが、市の担当課が出す課題が非常に難しい課題であったりして。それに申請して応募しようとしている団体が、自分たちの活動とちょっと違っているのに、無理して一生懸命それに合わせようとしてしまうというところで、でも結果うまくいかないみたいなのがあって。

行政が考える難しい課題をそのまま市民と協働しましょうってボールを投げるのではなくて、もう少し前段階のところで掘り下げをして、そこで市民団体と協働していくみたいな作業が、一緒に話し合いを長く続けるでもいいですし、別なところからの数値から探っていくとか。行政が持っている課題感と団体がやっていることとの違いみたいなものをもう少し噛み砕いていく必要があるかなって思いました。

そこでは、団体を育てるっていう視点が必要ではないか。行動計画とか、行政がやっていくことの中に市民活動の芽みたいなね、まだちっちゃい芽みたいなところを発掘してですね、そこにどういう情報を伝えたら、そこが育つのかみたいなアプローチも必要かなってというのが一つありました。

もう一つは、先ほど出ていたように団体も高齢化したりとか、ちょっと若者がいたら全然違う方向になっていったりとかもあるんだけど、一つはこう解散とかそういう時に、その人たちがやってきた事業を、今度はどういう団体に引き継いでもらうかみたいな、事業で言うと事業継承みたいなね、そういう役割があってもいいかなといった話はいろいろ出ていました。

（山岡会長）

施策全体が相互に連動してということを考えると、協働の話の数値だけで見てもダメで、団体が力量を上げていくみたいなことがないと、協働が進まないだろうという話が出ました。

あと、解散していくという数値を見て減っているから、それを押し止めないといけないということではなくて、それよりむしろ、ちゃんと適切に、同じようなテーマで活動している団体に引き継いでいけるような仕組みを整えることが必要だろうという話など、施策の連動が必要だよねというところに繋がっていたかと思います。

それぞれから出ました意見には共通するところもありますし、うちではなかったねってところもあると思います。お互いの報告をお聞きいただいて、ご意見や、あるいは重ねてなど、もしあれば発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

（佐々木委員）

協働事業の資料の中で、協働パイロット事業があって、今日出席されている白土委員の団体が継続事業に選ばれているご様子なんですけど、こういった経緯でそれが進んだのかとか、それが継続になったのかとか、ご経験とか聞かせていただけるといいかなと思いますが、いかがでしょうか。

（事務局）

自分の方から説明させてもらおうかなと思います。もともとですね、エスネが地盤

にしているのが駿河区の小鹿とかで、あの静岡大学のあたりのまちづくりみたいなことをちょっとやられていることもあるんですけども。ちょうど大型商業施設ができるかもしれないみたいな、区画整理をやっているところがありまして。で、そこが市の大谷・小鹿まちづくり推進課っていうところでやっています。

区画整理をやるとどうしても新しい環境になるということで、新しい人も来るし、企業も来る。だけど、そこにずっと住んでる人もいますから、そことうまく融合というかマッチングというか。街としてより良くしていくために、なんかできることはないかなってということで、大谷・小鹿まちづくり推進課というところが、事業を募集したというような形です。課題テーマっていう形で、何かできることないですかねってということで挙げた時に、エスネさんの方でご提案いただいたというような形になっています。

で、内容とすると、地域におけるプラットフォームみたいなところをちょっと作って、そちらにいろんな人が来て、話をして、場合によっては何か事業になっていくみたいなものができるといいよねってということで、合計で2年間かけてということになったんですけども。まずはその地域、大谷・小鹿地区にいるキーパーソンとなるような人をちょっと捕まえてみたりとか、そういう人たちの話を聞いて、地域で何か進めていくために、この地域だったらどんなことが必要なのかなってというようなことをちょっと考えていただいたり。あるいはご協力いただけるような企業さんとかお店とかをちょっと発掘していただいたりとか。そういったものを含めて、じゃあこのプラットフォームってどうやって構築していこうかっていうようなものを研究いただいたというのが、この事業になります。外略としてはそんな感じです。

（佐々木委員）

そうすると、市民活動をしている団体は様々あって、そこに協働でっていうのは、やっぱり静岡市役所とその活動をしている人がちゃんと結びついていかなくてはいけない。これは成功事例で、どちらかというとき市役所さんが、その地域課題に対して、どこか一緒にやっていける団体さんはないかなと、市の方から声をかけていただいた方が実現が早い。

活動している方々は必要だと思って動いている。でもその自分たちのノウハウがどうしても限られたり、ちょっとやりすぎちゃいけないのかなみたいな遠慮なのか。

そうすると市役所さんの方でもっと、様々な課があるので、その地域課題に対して、どんどん団体を捕まえていくっていうおやりになった方がいいのかなという印象です。

（山岡会長）

その辺はただ難しさもあるという話がさきほどありましたね。

(川村 美智委員)

だいぶ前のことですが、パイロット事業にDVの男性加害者向けの講座という課題を担当課が出されて、それに応募された被害者と加害者の両方を支援をしているという団体の方が、一生懸命アイディアを出されていた。でも、自分が加害者だと認識している人は少ないですね。それだけに更生プログラムのような講座を実施できる人は限られてきます。パイロット審査の審査をしながら、そもそも課題がすごく難しいんじゃないかって、審査員みんなで考えた事例があります。

だからむしろ例えば、幅広い相談事業をやって、そういう中から、もしかしたらこういう事例があるかなっていうところを探り出して、そこからどうやったら被害者にもならないし、加害者にもならないっていうプログラムができるかなみたいな、少し丁寧な段階を生まないと難しいなっていう風に考えたわけです。

今年も、避難所運営に関するパイロット事業で、障害がある方が地域の避難所で過ごすために避難所運営をどうするかといった課題が出されていて。今年応募した方にやっていただくことになったんですけど、なかなか本当は難しい。行政でも難しいと思っているけれども、市民活動も1年や2年ではできないんじゃないかって、自分も自治会活動をしていて思うことがありました。

そういう上手なマッチングっていうのですね。その辺が課題でしょうか。

(山岡会長)

マッチングっていうと、その出会う場所のことばかりにフォーカスするけど、今の話だと、例えば行政からこういう課題が出されたから、じゃあそれうちやりますじゃなくて、むしろそういう風に課題出されていますけど、こういう風にやらないとダメなんじゃないですかってこっちから提言して、一緒に事業を作っていくみたいな、そんな力量が求められるという話だと思うのですよ。

そうだとすると協働事業を進めましょうね、協働の件数を増やしましょうねじゃなくて、それはむしろ施策の柱3の方で、基盤強化のための支援とかそっちが必要になってきます。だからまさに連動なんですよ。そこだけ見ても多分実態は見えない。

だからここでもグッドプラクティスが出てくるんだけど、グッドプラクティスよりもむしろうまくいかなかった協働のことをちゃんと丁寧に見て行って、何が足りなかったのか、何が必要かを確認して、そのうえで打ち手を考えていくみたいなことが重要かもしれませんね。

数字そのものではなく、その数字から掘り下げてその奥を見ていくみたいな。そうすると、今まさに基本的視点で挙げている連動ってすごい大事ということを確認して、その際、市民活動側の力量の話もしたけど、行政側の力量も求められます。市民

活動団体はこういうことを今までやってきて、こういうことだったら市民活動団体と一緒にやったらうまくいくというような課題の提示の仕方ができるようになってもらわないと困るし、本質的な協働は進まない。そんなことは思います。

自由にということですので、関連することでもしないことでも構いません。いかがでしょう。今日のうちに、柱3・4の見直しをどうしましょうかということをおある程度筋道はつけておきたいです。

今出た中で少し。例えば、柱3のところで、市民活動と認識しないで活動しているようなものも評価はできないかと考えると、例えば、登録団体数で今見てるけれども、むしろ団体じゃなくて活動で補足していくとか。そんな視点ももしかすると必要なのではないかと聞いていて思いました。今は中間見直しなので新たに数値を入れるかどうかは別としてもそういう視点を持って見ていくことも必要なんじゃないかということは答申に盛り込んでもいいんじゃないかと、私は思いました。

今までは団体で見ていた。「市民活動団体」っていうところでちゃんと抑えていて、フォローして、それを引き上げてみたいな発想だったけど、もしかするとそういう「活動」みたいな視点があってもいいのかもしれない。難しいとは思いますが。

（白土委員）

登録団体数という数字であくまでここでは切り取っているけれども、指標の一つであるということを念頭において、答申に含めていくということは大切かなっていう話をしてました。新たな指標を今から加えることだけができることではないと考えています。

（山岡会長）

そういう視点を持っていく中で、ひょっとすると、次の第5次のところで、また別のふさわしい指標が出せるかもしれないですね。

（白土委員）

必要という声が強くなれば、必然的にそうなるかなと思いました。

（山岡会長）

やはり市民活動の多様化が進んでいるというのは明確だと思うんですね。学生たちの活動もそうだし、あと企業セクターの方たちの働きかけとかボランティア活動とか地域との協働みたいなことも広がっています。以前とはずいぶん違うので、また別の視点、団体だけという視点では捉えきれないのは間違いないと思います。

(木村副会長)

追加で、この計画とかとは関係ないんですけど、今言ったように協働で、例えばパイロット事業で、2年間とかやったその後、そういう活動を継続する部分もあれば、別のところから助成金を取る力をつけて自走していくってところなんですよ。なんかそういう協働で言ってた事業で、その後のなんかフォローがあってもいいかなって気もしました。

全てを協働で市民活動をやっていく必要は全くないわけで、例えば2年間そういった事業で応募したけど、それを発展的に自分たちがやってるとか、別な形での共同を作ったとか、一過性でない何かがあってもいいかなって感じがします。

(山岡会長)

それも中身の話で、ひょっとすると、その協働パイロット事業が終わった後に、まだ違う形の協働で事業としては続いているかもしれない。だから数としては伸びてないかもしれないけど、中身の話ですよ。協働パイロット事業が終わった後にどうなっているかもちゃんと把握していきましょうということですね。そこを見ていくと、もしかするとまた違った支援の仕方、ふさわしい支援の仕方が見えてくるのかもしれないですね。

(河村委員)

皆さんの話を聞いてると、私のやっている活動はそんなに公益性というのが、それほどないのかなという。プロでやられてる活動を継続したりとか、市に認められたりとかっていうのがあるので、私のような活動だとあまり言えることがないのかなって感じがするんですけども。逆に、私みたいにサラリーマンをやって、それで休日だけとか、夜ご飯作らなきゃいけないんで、朝4時に起きてそれから会社出るまでの6時半までパソコン叩いたりとか。そういう層に対して、そこまで市民活動の質を、高めたいと思っているかどうかは別として、そういう風に最終的にはこの社会課題を解決するようなところまで、先ほど川村 美智委員がおっしゃった育つような芽であれば、それを育てるというか。そういった育てていただくようなところに出会ったことがないので、もしそういう風に何か、私のやっている活動が担当課さんからそういう風に育てていただければすごいありがたいなっていうのが一つ。

あとはこの新規の登録団体数というところで、活動と数っていう見方もありますが、静岡ガスさんが、社員の皆さんがそういう活動をやった時に、それを社内であのお認めになっているっていう、その奨励をしたりとか、そういうことをされているっていう話を多分初回に聞いて、ああすごくいい会社だなって思ったんですけど。静岡ガスさんて登録されてますか。

（大村委員）

ここにある団体とはちょっと違うイメージですね。

（河村委員）

なるほど。この団体数っていうのも、完全に市民、私はもう任意団体で一個人、一市民としての団体みたいな感じなんです。で、皆さん、NPO だったりとか、あとは企業がやられていたりとか。ちょっと属性が分かれていると、1,200 の NPO があるのかっていうとそうでもないし、1,200 の個人で活動している人がいるかってそうでもないし、1,200 の企業がやってるわけでもないし、この内訳がわかると。

例えば、こんなに静岡市内に、例えば静岡ガスさんがやられたりとか、やってる企業があるんだとか、個人がいるんだとか。そういう風な見え方がすると、ちょっとやる気が違ってくるというか、ハードルがなくなるというか、自分に近い感じがするというか。もうちょっと個別に分かれた属性ごとの打ち訳がわかるといいかなっていうのはちょっと個人的に思いました。

（山岡会長）

データベースとしてはわかるんですか。任意団体か法人格持ってるかぐらいのことは。

（事務局）

そうですね。データ上はわかります。NPO 法人っていうと、今市だと 330 ぐらいです。多いのは、任意団体さんで、ざっくり言うと 1,000 ぐらいっていうようなイメージですね。あと最近だと病院の敷場をちょっと使って、場所を提供してくれるようなところもあるもんですから、まあそういった企業さんとかも含まれてるんですけど、数は少ないかなっていうような印象ですかね。それはデータとしてお出しはできるかなと思います。

（山岡会長）

その数字があると、例えば事業主や経営者の方が何かやろうかなと思った時に、それを会社としてやるべきなのか、個人としてやることなのか。あるいはライオンズクラブやロータリークラブとしてやるべきなのかと考える際の参考にはなるかもしれないと思います。公表できる数字があればいいかなとは思いました。

（山岡会長）

営利法人は登録してないですよ。きっとできないですよ。できるんですか。で

きるかできるのか。

（事務局）

企業として、CSR というか、営利目的じゃない形で、市民活動の中としてやるって
いうことであれば、登録できる感じですね。

（山岡会長）

中身もちゃんと見ていきましょうって話ですよ。

数値の目標をどうするかっていうところを確認しておきたいです。全体の議論の中
で、この数字を具体的にこう引き上げていかなきゃいけないとか、もう少しここは抑
えようというような話はあんまりなかったので、数値に関しては今ここでどうという
ことはなくてよいかと思います。

それは意見が出なかったからということではなくて、やっぱり数値は一つの目安だ
ろうという意見が多くあったということです。数値は中身を見ていくための参考とし
て扱うべきで、数値だけでを見て状況を把握することはできないだろうという話もあ
ったので、数値に関してはひとまず中間でここを変えるという議論はいいですかね。
もしご意見あれば。これだけ上がってるんだからちゃんと目標も上げようよという意
見もあるとは思いますが。

あと私がちょっと今日ここで話して思ったんですけど、その数字の見せ方というか
提示の仕方も考えた方がいいなと思いました。行政として目標数値が必要だというの
は分かるんですけど。でもそれがひとり歩きしたり、さっき市民活動側から見ると、
それがプレッシャーになるよみたいな話もありましたし、あるいは市民の側から見れ
ば、数値目標が達成できていないと、行政は何をやっているんだみたいな声が出てき
たりとあって、それって全然本質じゃないですよ。

数字の提示の仕方は、この中間のところで少し考えてもいいかなと思います。要す
るに、数値目標はあっていいんですけど、それをどう示していくということです。他
の行政施策と同じように、KPI 的に数値を出して、市民活動ではここの数値を上げて
いくことを目指しますみたいな提示の仕方ではなくて、こういうことの参考として数
値をフォローしながら政策を打っていきますみたいな見せ方の方がいいのではないか
と、私は思いました。

（川村 栄司委員）

今会長がおっしゃったことで思い出したんですけど、さっき小グループの中で白土
委員と話をしている中でですね、市民活動センターにおける新規登録団体数のところ

で。現状が 33 で、中間目標、最終目標ともに、年に 33 団体というのを謳われていて、実績はかなり上回っているんですよ。52 とか 54 とか 55 とかって。

そのところでこの数字を少し上げてもいいんじゃないかという話もちょっと出たんですけど。今、会長のおっしゃってる話を聞いていて思ったのは、実際には目標を上回ってるんだけど、総数っていうのがあって、目標では令和 8 年度に総数 1283 団体ってなっていて、総数そのものはそんなに増えてないんですよ。

それはどういうことかということ、つまり新規登録は増えている、目標達成している。だけど、総数はそんなに増えてないということは新陳代謝が進んでいるということだと思うんですよ。

NPO も後継者問題というのは結構深刻で。NPO 法ができて以降結構たくさん NPO ができてきたんだけど、その後の市民活動の推移の中で、必ずしも NPO 法人という形にしなくても、任意団体もあるし場合によっては株式会社、社会的企業みたいなことも言われている中で、組織形態がかなり自由になってきてるんですね。そういう中で、この数字だけ見て全てはわからないんですが、退場していく団体と登録していく団体で差引きはそんなに増えてはないけど、新陳代謝は進んでいると。

そうであれば、目標数字 33 をいじらなくても、付け足しの文章で、「しかし、その総数から見ると新陳代謝が進んでいて、それは市民活動が若年層にも浸透している証だ」と。

以前から出てますように、若い人って、白土さんもそうなんですけど、市民活動センターがあるとかないとか関係なしに活動してるんですよ。それは活動センター側で把握できていないものも多分あるということも踏まえてですね、ここは登録件数ですから、分かっている数字ですけども、そういう社会のうねりがあるので、そこはプラス評価的な文章を添えながら、目標数字はそのままでもいいかなと思いました。

（山岡会長）

まだご意見もあるかもしれないですけど、時間の関係もあるので、一旦ここで。今日出た意見を踏まえて、本文中にどう反映させるかというのをこの場で決めるのは難しいので、事務局の方でまとめて後日共有していただくということでよろしいですかね。

施策 1・2 の方でまたもう 1 回、8 月に協議がありますので、その時に 3・4 のところでもということがあれば、触れることもできると思います。今回言いそびれたということがあれば、それも事務局にご連絡いただければ、受け止めていただけると思います。そういう形であとは事務局の方でまとめて提供いただくということでお願いいたします。

続いて「答申案について」事務局から説明お願いいたします。

(事務局説明)

答申案について

(山岡会長)

答申の中身じゃなくて、構成ですよ。構成について、こういう構成で作っていきますよということですけどもいかがでしょうか。何かご意見やこういう項目も入れた方がいいよとか、いかがでしょうか。

特段何か、ここをこうしましたみたいなことはないと思うのでいいかなと思いますけど、もし皆さんの方で何かご意見あれば。

これももし何かあれば、意見を出せる機会はあって、ここで構成が決定ということではないですよ。

(事務局)

そうですね。次回の協議会などもございますので、そちらでもご意見いただけます。

(山岡会長)

ちょっとパッと思いつきませんが、問題ないような気はしますけど。

(川村 栄司委員)

答申案の検討というペーパーでいいんですよ。事前に配布されたので、感じたことを言わせていただきます。前回までの会合の中で、会長も言われていましたし、私も発言したんですけど、この委員会のテーマというのは、中間見直しということにあるわけですが、もともとの計画はかなり練られていて、その根幹のところは別に入力する必要があるんじゃないかという話と、もう一つは、しかし、いかにそれを達成するかという How To のところですよ。つまりやるべきこと、やりたいこと、なりたいものというものについて提示ができていんだけど、そこにいかに近づけるのかというところが、いつも課題になるわけで、その観点で、今度の見直しで、入ってはいると思うんですけど、入れていくことが中心。根幹を見直すのではなくて、How To の部分を見直すということで、いいんじゃないかと。

その時に静岡市の5次総が出ていて、その辺を考慮せざるを得ないというのが多分事務局のお立場だと思うんですけど。バックカスティングという新しい言葉も出てきたりして、そこのすり合わせというか、落としどころというか、その辺を考えていただければいいのかなというふうに思います。

さきほどから出てますように、数字は参考であるということも、この中では共有

できているんだけど、外に出た時に、やっぱり数字だけ見て評価しようとする人がいるので、そのあたりも配慮しながら作り上げていく事が必要かと思います。

もう一つは、ここの場で言うことでもないかも知れないですけど、むしろ5次総対して言うべきだと思うんですけど、人口減少ですよ。ここが大きなテーマになっているということで、市もいろんな施策を打ってくるわけですが、非常に議論が足りないような中でいきなりポンと出てくるのが多くてトラブルの元になったりしているように感じるんですよ。そのあたり人口減少ということで、いかに賢く縮んでいくかという観点でいろんなことを見るんだよってということをもっとはっきり言ってもいいんじゃないかと思うんですね。市はね。

ただしその前提として、やはり手続きは大事だよと。みんなが納得してやらないと。新しいアイデアが出てくると、それに議論が沸騰してしまって、市民の中が割れてしまうっていうことがあると思うんですね。そういう事も配慮しながら、市民が割れないように賢く縮んでいく。静岡市は人口減少率が政令指定都市の中でも、多分ワーストワンぐらいですよ。だからそのあたりも踏まえながらですね。市民に対しては正直にいろんなことを発信していくのがいいかと思います。

（山岡会長）

後段の部分はなかなかちょっとどこまで入れるかっていうの難しいですけど。でも前段でおっしゃっていただいた部分は大事で。項目としてこの基本的視点ってことで入れてもらってますけど、そこに何を盛り込むかですよ。多分こういう視点で評価しましたってことだけじゃなくて、やっぱりこの視点で、今日話していてすごいいいなと思ったんですけどね、連動してるかっていうことと実態に即しているかっていうところ。どうしてこういう視点で、我々が評価したのかっていう、多分これまでの議論の中であると思いますので、それをきちんと入れていただくということが大事なかなと思いました。

（川村 美智委員）

今の川村 栄司委員に私もすごく賛成で、やっぱり人口減少のことを無視できないので、そこに関わる部分っていうのを少し記述を入れるとかっていう。

人口減少っていうとすぐ企業を誘致すればいいとか、もちろん働く場所が増えることは大事なんですけど、本当は小さな市民活動が生き活きとしている街とか、人と人が出会える場所がたくさんあるとか、人々の交流のチャンスが多いとか、経済効果とはまた違うことがすごく大事だと私は思っているんですね。

それですぐ人口が増えるわけじゃないけど、そこに住んでいる人が意見を言いやすいとか、共感を持ってくれる人がいっぱいいるとかっていうところって都市の中で重要な要素だと思うので。市民活動促進基本計画は、そういう視点が入れられる計画だ

と思うんですよ。だからその辺は、文章の中に入れ込んでいただければいいかなって
いうふうに思います。

実は、静岡市が3月にやった機構改革で男女共同参画人権政策課ってところの
課名がなくなってですね。社会的包摂推進課って名称になったんです。その時
に、男女協働参画とか人権という言葉がなくなっていいんだろうかということで、私
たち市民として、それはやめてほしいというような要望書を出したけど、結局通らな
くて、そのままなってしまったっていうこともあって。そういうところに、市が生活
とかその辺の文化とかみたいのを軽んじてるんじゃないかなって印象をちょっ
と持ってしまうんですね。

例えば、施設を縮小しなきゃならない、再編しなきゃならないというのはすごくよ
くわかるんです。絶対的なお金もないし、施設の維持は大変だってことはみんなよく
わかってると思うんです。でも、やむを得ずこうするけど、この部分は大事にするよ
っていう部分が見えてこないかなって。ぜひ計画の中にそうじゃないよっていうと
ころを入れてほしいなと思います。

（山岡会長）

今の話だと、市民活動を取り巻く現状の中にもう少しそういうこと、通り一遍のこ
とじゃなくて、こういうところにちゃんと着目して見直しをしましたということを表
現したいです。そこに関しても皆さんの意見を入れて、この答申を作っていくように
したいと思います。。

よろしいですか。特になければ、以上で今日の議論が終わりということになりま
す。よろしいですかね。

次回は、柱の1・2の中間見直しと引き続き答申案についての議論ということにな
るかと思います。次회가答申を出す前の最後の協議会になります。ですので、そうい
うおつもりでよろしくお願いいたします。本日の議事は以上となりますので、進行を
事務局にお返しいたします。

（事務局）

活発な協議をありがとうございました。会議録の作成とともに、本日皆様からいただ
いた意見をまとめまして、次回答申案を文字に起こしてまとめていけたらいいかなと
考えております。10月に答申をいただく予定ですので、第5回はその前に開催する
ことになります。ありがとうございました。

